

第3回磁場核融合ネットワーク会合メモ(案)

日 時：1997年3月31日

場 所：核融合科学研究所 本館2階企画室
窓L)

1. LHD計画共同研究について

計画共同研究委員会で予算配分を決定した。その結果を運営協議会で報告した。
(玉野)

運営協議会で報告しただけでは不十分である。もっと広く知らせるべきである。
(伊藤)

計画共同委員会の存在が知られていない。(後藤)

共同研究である以上は他を排除してはいけない。全国共同利用研としての使命を認識すべきである。(伊藤)

計画共同研究の予算に関しては平成9年度においては大幅な削減(約半分)となった。平成

9年度の意見をお聞きしたい。(藤原)

共同研究の採択項目2の高温プラズマ熱粒子制御法の1の課題に関しては九大では赤字負担となった。採択にかんしては炉工にまかせるのではなく、お互いにクロスチェックを行う必要がある。(伊藤)

この件に関しては、それぞれのグループにオブザーバーを置くことを非公式に提案した。
(玉野)

。)

カテゴリーの大幅な変更は現時点では困難である。藤原

磁場核融合ネットワークを育成する議論を行っていく必要がある。将来的な方

向について

も広く情報を流すべきである。(後藤)

予算の割り振り、カテゴリー間の接点に値する研究課題も重要、ネットワークにもプラス

に作用する可能性がある。(佐藤)

平成9年度の予算はどのようになっているか?(玉野)

平成9年度の予算は計画では2.7億円であったが、実際には1.8億円となった。(藤原)

平成8年度で採用されたからといって、平成9年度も採用されるとは限らない。計測へ

の予算の配分が多い様に思われる。(佐藤)

研究課題が多すぎる様に思われるが、ポート等は確保されているのか?(伊藤)

共同研究用のポートは10個程度確保されている。(山崎)

来年度以降の予算についてはどうか?(高村)

1億円以上の伸びは期待できない。(藤原)

共同研究は各大学等の研究の裾野を広げる意味も含まれている。(伊藤)

全ての研究課題に一律ではなく、中身を検討して予算配分するのが良い。(玉野)

共同研究の中身に無理があるようであれば不採用とするべきである。(佐藤)

共同研究の採用・不採用に関する情報が何故通知されなかったのか?(伊藤)

今後、情報は核融合科学研究所とネットワーク委員会から流すようにしたい。(玉野)

2. 原子力部会でのヒアリングについて

今年の2月に各大学のプラズマ・核融合に関する研究動向の調査が行われた。

核融合部会でここ10年間にわたる研究の進捗状況の検討が行われる。

ヒアリングは以下の主な研究施設に関して行われる

- ・九州大学応用力学研究所
- ・大阪大学レーザー核融合研究センター
- ・京都大学エネルギー理工学研究所
- ・核融合科学研究所
- ・東京大学理・工学部
- ・富山大学
- ・東北大学金材研
- ・筑波大学プラズマ研究センター

他の研究施設に関してはどのようにするかは今後の会合で議論する必要がある。

これに関

しては4 5月にかけて2回の会合

どの大学でどのような研究が行われているかを記した資料を出すべきである。

(後藤)

簡略化のため内容は箇条書きでまとめるべきである。全国的に繋がった研究をしている

ことを積極的にアピールすべきである。(伊藤)

各大学の研究報告はNIFSシンポジウムで行いたい。(藤原)

各大学の研究状況調査のためのフォーマットの試案を回覧する。(玉野)

各大学に関する一種のデータベースに匹敵する膨大な量の内容になる。

調査書の中に書かれている研究分野と関連分野との相違は何か?(後藤)

質問内容を圧縮するべきである。(佐藤)

詳細すぎるようである。これまでの成果と今後の計画、また、研究の位置づけを記すの

が重要である。量は多くてもA4を2枚以内とすべきである。(伊藤)

「関連した核融合研究の位置付け」の質問は削除すべきである。共同利用状況について

はその他にまわした方がよい。(高村)

各大学の研究状況調査書を電子メール、郵送等で配布したい。各地域担当の方はご連絡し

ていただきたい。各大学リストの中の間違い箇所は山崎先生まで連絡すること。

(玉野)

山口大学は九州地区に入れる。(伊藤)

磁場核融合ネットワークから飯吉所長に渡す資料はどうか?(伊藤)

聞き手にポジティブな印象を与える発表を行うべきである。(佐藤)

今後、ネットワーク委員会をさらに行う予定である。研究状況調査書の配布は早めに行う

。

3. 今後の予定

4月22日にNIFSシンポジウム

5月7日にネットワーク会合を行う。

次回の会合までには研究状況調査書の回答を完了すること。